ENJOY・TENNIS

KTC 会報
2006.11.18
VOL.85

KTC 公開
http://ktc.cool.ne.jp/

『第２７回ひたちなか市
クラブ対抗トーナメント参戦記』
監督（名前だけ！²）：富樫

第１回戦を惜しくも？落とした KTC1 の残留戦は、ＨＣＥとの対戦。この試合を落とすとＤクラスへ降格。この事態に監督が下した判断は出場順の変更であった。第一試合を見る限り、まずは試合巧者を先頭打者に送り込み、確実に繋げてクリーンナップで試合を決める（高校野球の見すぎ！）作戦にでる。

迎えた第一試合。１回戦では相手のポーチ攻撃と徹底したロブ攻めに翻弄された両ペアだったが、この試合は相手とのラリー戦となる。こうなれば持ち前の粘り強いプレーが持ち味を発揮する。相手と互角に試合を展開して４－４で迎えた第９ゲームに相手のサービスをブレーク。５－４とリードを奪う。しかし、続く第１０ゲーム大嶋のサーブをブレークされて流れが相手に傾きかけた所をすかさずブレークバック。最後は樫村がサービスをキープして７－５で勝利を奪う。

この勝利は大きかった！本日初勝利をもぎ取ると続く第２試合は初勝利の流れをそのままに斉藤・名取が早々に相手のサービスをブレークして２－０とリード。その後相手にサービスブレークを許し２－２とされるが、すかさずブレークバックをする堅実な展開。その後は相手にリードを許す事無く、最後は名取のミラクルボレーで勝負を決めて６－２で勝利。クリーンナップへと最高の状態でつなげる事となった。続く第３試合は KTC1 のＣクラス残留を担った江橋・荒木ペアの登場。この時点で、普段の二人の実力から誰もがＣクラス残留決定を疑っていなかった。（巨人の上原が完投するぐらいに。）Ｓ２、Ｓ１で控えていた２人も「僕達の出番はないね！？」とホット一安心で試合の行方をまったりと見守っていた。（森君は井上かずし君と仲良く遊び富樫君は応援の皆と楽しく談笑していました。）すると迎えた第３ゲーム。相手のダブルフォルトで難なくサービスブレークに成功。このまま一気に完封勝利かと思われた瞬間悪夢が始まった。第４ゲームのサービスゲーム、３０－４０からお付き合いのダボを献上。続く第５ゲームをブレークして今度こそと望んだ第６サービスゲームを同じくダボで落とす３－３。

ここから僅かに歯車が狂い出す。何かを察知したのか相手から「後ろのコートが開いたので予定通りＳ２を入らせて下さい。」しぶしぶ森君がコートイン。何とか流れを取り戻したい江橋・荒木ペアであったが悪い流れは断ち切れないもので、お互いのミスが早くなり相手に傾いた流れを取り戻すことができず、最後はマッチポイントで相手のラッキーショットが炸裂！３－６で惜しくも勝利を逃す。対戦スコア２－１となり最終Ｓ１もコートインとなり、シングルス決戦が始まった。

富樫サービスから開始したＳ１は、３－３までお互いのサービスをキープする展開となる。迎えた第７ゲーム富樫サーブゲーム中、終盤を迎えていそうなＳ２コートサイド応援席から「ナイスショット！」「ウォー！！」と大歓声が聞こえてきた。（そのほとんどが井上さんの元気な声だったのは言うまでも無い）この歓声を聞き勝利を確信した富樫は淡々とサービスゲームを奪い４－３とする。

しかしここで、他力本願で残留するつもりはさらさらなかった。ましてやゲーム展開を考えると相手のサービスをブレークするチャンスはいくらでもあった。要所でポイントを奪えないもどかしさのなか、第８ゲームのブレークチャンスをなんとか物にして５－３とリードする。この頃から、Ｓ１コートサイドの雰囲気が一転してきた。「ま・さ・か！」Ｓ２が終ったわりにはゲーム中断の声がかからない。手にかいた汗も冷や汗に変わる中第９ゲーム３０－３０からダブルフォルトを連発していまい５－４と詰め寄られる。

しかし、ここで相手のサービスを取られると完全に試合の流れを持って行かれる事は経験的にわかっていた。ましてや、皆の応援を背に受けては負けるわけには行かない。

今一度気力を振り絞り集中力を取り戻すためにも大博打を打つ事を決意。「相手は最初のポイントで必ず一本バックに配球してこちらのスライスボールをネットプレーで仕留めに来るはず。今まで同じパターンでストレートにしか返球していないからバックハンドフラットでクロスに返球しよう」。この思惑が見事にはまり又、快心の一打が欲しいところで決まった。この一球は自分自身にとって非常に大きな一球となる。精神的にも優位にゲームを運んで迎えた１５－４０のマッチポイント。最後は相手のフォアハンドエラーで熱戦に幕が下りた。

〈監督のプチ総評〉

今回参加して頂いた皆さんにまずはお礼を申し上げます。ご苦労様！今回の試合で感じた感想を書きたいと思います。

Ｃクラスでは、ゲームコントロールを考える事が勝利を掴む条件となると思います。

まずは、ファーストプレーを大事にする事が基本だと思います。相手のサービスなら１本目のレシーブ、自分のサービスならファーストボレーを大切にしたいものです。ここで簡単にネットミスを繰り返すと相手にとっては非常に楽な展開となり無理をしなくてもゲームが取れ、精神的にも優位に立ってしまいます。とにかく１本ネットを越す。これだけで十分です。このプレーでポイントを取る必要はなく、相手にプレーの機会を与えるだけでもチャンスは必ず訪れます。まずは確実に１本目を繋げる努力をしましょう。

第２は、ここ一番での思い切りの良さが重要でしょう。試合中全てを無理に決める必要はありません。ただゲーム進行の中で「ここだ」「この１ポイントはどうしてもほしい」と言う場面では時には自分からポイントを奪う勇気も必要だと思います。これらは日頃の練習での意識も必要ですので是非ポイントの一つに考えて見て下さい。

Let’s　Enjoy　Tennis！！！

ひたちなか市クラブ対抗戦と「ご苦労様会」リポート　　根本

今年の７月１６日に東石川テニスコートで行われた「ひたちなか市クラブ対抗戦」に参加しましたので、ご報告致します。

私が参加したのは、クラブ対抗のＤクラスの団体戦です。構成はダブルスが３組、シングルスが２組となります。我々のメンバーは、監督の川崎さん、Ｄ３が私と羽井野さん、Ｄ２が太田さん・奥田さん、Ｄ１が西村さん・山口さん、Ｓ２が西野さん、Ｓ１が大山さんの計９人です。

初戦の相手は「Ｔｅａｍ　ＫＡＺＵ」の方々。

試合開始が近づくにつれ、少しずつ対戦相手情報が入って参ります。お話しを良く聞きますと、ＫＡＺＵの実体は「扶桑テニスクラブ」のメンバーで構成しているとの事。「扶桑テニスクラブ？！」と聞いても、よく分からない自分。今思えば、逆にプレッシャーにならなくて済んだのかも知れません。我々は大会のコートキーパー（大会を運営する係みたいなもの）も兼ねていました。昨年、参加した際にも初めてコートキーパーを任されたのですが、慣れないので参加チームの皆さんには、かなりご迷惑を掛けてしまったのではないかと思っていました。今年は少しマシになったかな…？佐藤さんを始め、星さんや河野さん、黒沢さんなどの役員の方々には、様子を見にきていただき有難うございました。そして心配をお掛けしました（笑）。

試合開始。私たちはＤ３ですので、試合順は一番手・・・。当然、緊張はしていたんですが、何故か落ち着いているのです、こういう時。普段はノミのような心臓の持ち主。意外にも、ＫＴＣの練習、特にサービスの練習ではもっと緊張しています。なにか、皆さん見ているし、視線が痛いもので・・・。

試合開始前には、対戦相手と少し打ち合ってウォーミングアップするんですが、パートナーの羽井野さんと見てビックリ！「正直…、球筋も全然違うし、うちらじゃ厳しいかも…」というのが第１印象。間違いなく自分たちより上手なチームでした。けど、今の自分たちがどのくらい通用するのか、試すには絶好の相手。胸を借りるつもりで試合に挑みました。

コイントスでボールを選び、こちら側のサービスでゲームを開始。表面がはがれて凸凹の石川コート、イレギュラーもあって、いきなりサービスゲームを先取！「うぉ～！！これはもしかして・・・！？」なんて、喜ぶ２人。この後は、やはり現実が待ち構え、あっという間に３ゲームを取られてしまいました。

ただ、ここから我々にも変化が…。またもやサービスゲームをキープ。これまで、黙々と試合していたのに、プレイの合間に作戦を相談するように。「相手のあそこが弱い」とか分析までする余裕（？）も。実際に狙ってみたりして、ポイントをとるようになると、簡単なハイボールをミスるなど相手にも焦りの色が…。

結局、試合は２－６で負けてしまいましたが、気のせいか、最後には相手の一方的な場面は少なくなったような…？。ほかのＤ２、Ｄ１、Ｓ２、Ｓ１も全滅、昨年同様に初戦敗退でした。違っていたのは、チームの皆さんが格段に上達していること。特に、少しでも上達したいという向上心が見られました。

大会終了後、「ご苦労様」と「反省会」を兼ねて、その晩に親睦会がありました。まあ、いわゆる飲み会です…（笑）。Ｃクラスで参加した名取さんと斉藤さん、女子チームの黒沢さんも乱入。「あの時はああっだったよね」とか、数少ない武勇伝を思い出しながら、緊張と楽しさに入り混じった複雑な１日の最後を締めくくりました。

年齢はバラバラな自分たちですが、そんなことは全く関係なく、ただただテニスを楽しむ仲間として、仲良くお付き合いさせて頂いています。これも、ＫＴＣに入会したお陰。この良い関係を続けて行きたいなと思いました。

１０月２８日(土)、爽やかな秋晴れの下、恒例のＫＴＣクラブカップが開催されました。今年は初の試み！チーム戦での大会となりました。今大会で見事優勝を果たした河野監督率いるＣチームのメンバーである、羽井野氏に感想を寄せて頂きました。

【クラブカップに参加して】

羽井野

例年と比べ参加人数が少なかったせいか、昨年までのクラス別に分かれてのダブルス戦とは違って、今年は団体戦のチーム戦ということで、いつもよりは気軽な気持ちで参加することができました。当日は朝８時からコート開放、８時４５分から受付開始。なぜか張り切りすぎて、８時前にコートに着いてしまったのですが、すでに数人スタンバっているではありませんか…。ここは負けじと、コート開放と同時にアップ開始、ひと汗かいたところでコートを譲って受付へ。タイムスケジュールをもらってビックリ！。その時初めて、団体戦ということが判明。指導の方を監督として、参加者はＡ～Ｆの６チームに振り分けれ、総当たり戦で争われることになりました。メンバーは各チームとも６～７人で、少なくとも１人の女性が含まれ、男として認められた女性（容姿でなく技量）がいるところもあり、個性豊かなチームが編成されていました。

私は河野監督のＣチームの一員として参加することに。この日一日は、たとえ親兄弟、夫婦友人であっても離れ離れ、しかも敵同士で対戦することとなったのです。

開会式で、ＫＴＣのクラブ創設３０周年ということで優勝の賞品が豪華らしいことが発表され、監督はＤ１もしくは、Ｄ２のミックスダブルスにしか出場できないルールなどが説明され、みんなで記念撮影して試合開始となりました。各チームとも、監督の下で一致団結。どのチームも「力はほぼ互角」と見て、試合開始前から心理戦をスタート。相手がどういう組み合わせで来るのかを考え、監督が苦心のオーダーを。私たちのＣチームは、監督の「楽しみながら」という方針のもと、メンバー全員とそれぞれダブルスを組んでいきました。

公式戦でないにしろ、プレッシャーで緊張するはずが、団体戦なので、たとえ負けても、ほかの２つが勝ってくれればチームの勝ち。無責任でチョー脳天気な性格が幸いして、何故かその日は絶好調。お荷物要員として配属されたはずが、皆さんの期待を裏切り個人成績３勝２敗、チームの成績はなんと５戦全勝で優勝。メンバーの皆さん本当にありがとうございました。

優勝商品は、アディダスの赤いシャツでした。楽しい仲間と楽しいテニス、「少し上達したかな」と思えた一日でした。

＊＊＊＊＊＊＊＊編集後記＊＊＊＊＊＊＊＊

今年度２回目の会報誌・・・・発行が遅れてしまい申し訳ありませんでした。。。

さて、次号のお知らせですが・・・

今年度は『KTC30周年』の記念すべき年！ということで、会報発行残り２回分をまとめて【KTC30周年記念誌】と題して、今までにない会報誌を発行の予定です。

記念誌発行予定月は2007．2月を予定しています

どうぞ、お楽しみに♪　　KTC広報：羽井野・井上

【練習スケジュール】（12 月～H19．1 月）

ホームページの練習スケジュールを参照してください。

配布しています広報誌にはスケジュール記載されております。